

ケースメソッドとは？



ケアマネジメントセンター和奏
日本福祉大学 非常勤講師
宇佐美 千鶴

ケースメソッド教育法とは

判断や対応方法を求められる**ケース教材**を使って、参加者とともに**討論**しながら、当事者の立場に立ち、自分ならばどのように判断し、行動するのかを訓練する教育。

20世初頭にハーバード大学ロースクールで実施されていた授業方法を、1962年に慶応大学大学院が採用し、経営教育に応用した。

50年以上を経て、**マネジャー個人の能力開発のみならず組織能力の開発を見据えた教育方法**として構築されている。

ケースメソッドは、個人予習、グループ討議、クラス討議、振り返りの4つの学習ステップで進められる。

出典：日本福祉大学大学院 ホームページ

ケーススタディ（事例検討）と ケースメソッド

| | ケーススタディ | ケースメソッド |
|--------|---------------------|---------------------------------|
| 目的 | 情報提供 | 教育 |
| 参加者の作業 | 情報の摂取 | 問題発見・分析・意思決定 |
| 記述 | 解釈的・評価的 | 中立的・客観的を目指す |
| 描写場面 | 事象の時系列的描写と 課題の提示 | 意思決定・判断を迫られて いる場面 |
| 問題提示 | 明示的 | 明示されているとは限らない |
| 結論 | 明示的 | 明示されない |
| 使用方法 | 一人で熟読→ 全体討論 | 一人で熟読→グループ討 議→クラス討議→ 振り返り |

出典：金沢工業大学 岡部幸徳先生の資料を引用し、一部変更

ケースメソッドが目指す教育効果

- ①相乗効果による**実践知を磨く**
- ②疑似体験を繰り返すことで、試行錯誤や修羅場体験をし、**精神力が鍛えられ、人間的成長をとげる**
- ③お互いの価値観を再発見し、さらなる**高次の価値を創造する**
- ④人とつながり、人を束ね、方向付けることで**連携力、リーダーシップ、メンバーシップ、フォロワーシップをつける**

連携に大切な価値

「学びの共同体」を貫く価値
 勇気・礼節・寛容

①**勇気**とは、まず「発言する」勇気で、それを乗り越えたら、次は「人とぶつかる勇気」である。

建設的な対立や反論によって、議論は深まる。

出典：高木晴夫、竹内伸一「ケースメソッド教授法入門」慶応義塾大学出版会、2010

連携に大切な価値

「学びの共同体」を貫く価値
 勇気・礼節・寛容

②**礼節**とは、仲間と作業する際の礼儀は、単純だが強力な美德である。

これにより、「話して良かった」と思う。

例：これは、〇〇さんがおしゃっておられた発言で・・・△△さんの発想に賛成します。
 など発言やアイデアの貸し借りは、必ず礼儀を添えて

出典：高木晴夫、竹内伸一「ケースメソッド教授法入門」慶応義塾大学出版会、2010

連携に大切な価値

「学びの共同体」を貫く価値 勇気・礼節・寛容

③**寛容**とは、世の中にある多くの立場を受け入れる度量。

議論を重ねることは、自分とは異なる立場や考え方をもつ仲間と深い信頼関係を築きながら、自分の度量を大きくする一助。
勝ち負けやヒエラルキーを超えた関係。

出典：高木晴夫、竹内伸一「ケースメソッド教授法入門」慶応義塾大学出版会、2010

連携に大切な姿勢

「学びの共同体」をつくる

- ◆「学びの共同体(Learning Community)」とは、参加者全員が、協力して議論を作り上げながら知的探求を深めていくこと。
- ◆ケースメソッドは、講師と参加者同士が**フラットな関係**の中、相互に**知恵**を出し合うことで成り立つものであり、「学びの共同体」そのもの。
これは、チーム支援と重なる。
- ◆さらに、「学びの共同体」の底流に流れている価値は**「勇気」「礼節」「寛容」**である。

マネジメント能力のヨコ軸とタテ軸

